

地球環境と調和したモノづくりにむけた取り組みの強化

Materiality

アイチグループは、環境課題として「低炭素社会構築」「資源循環型社会構築」「自然共生」の3つの課題を掲げ、中長期目標の設定を行うことで、実現に向けた取り組みを行っています。この取り組みを通じて、環境との調和を図り、エネルギーと資源の効率的利用を実現していくとともに、地球環境と調和したモノづくり、製品およびサービスの提供を通じて、社会、地球の持続的発展に寄与していきます。

環境マネジメント

基本姿勢

私たちは、環境保全活動を企業経営における最重点課題の一つとしています。1996年6月に「愛知製鋼環境憲章」を策定し、環境への取り組み姿勢を明確にしています。1993年6月には「環境に関する行動指針(現:環境取り組みプラン)」を制定し、目標達成に向けて、積極的に活動を展開しています。

環境マネジメント推進組織

環境マネジメント体制を構築し、愛知製鋼環境憲章に基づいた環境保全活動を実践しています。環境活動を組織的、体系的に進めるために、地球環境会議が、4つの分科会、地球温暖化防止部会、愛知製鋼グループ環境連絡会議を統括し、環境保全に向けたあらゆる活動を強力に推進しています。

また製造現場を持つ連結子会社のISO14001認証取得100%を目指しております。2012年1月、フィリピンのAFCが認証取得を完了し、AMC(チェコ)以外の対象会社で認証取得を完了しました。

内部監査委員教育

環境マネジメントシステムを有効に運用支援する内部監査員に2015年度は16名が認定され、228名になりました。また、海外赴任予定者に対しても随時内部監査員教育を実施しています。

環境ガイドライン

当社は、環境管理活動を推進するため、「環境管理規程」を定めています。その内容は、①環境管理の推進体制に関する事項、②「環境基本法」をはじめとする環境関連の規制(法律・条例・協定等)の遵守・管理に関する事項、③製品、原材料、副資材および設備の環境影響の事前評価に関する事項、④社会や地域における環境保護への支援および協力活動に関する事項などがあります。

監査結果

2015年度の環境マネジメントシステムの内部監査、更新審査の結果は、以下のとおりで、重大な不適合はありませんでした。

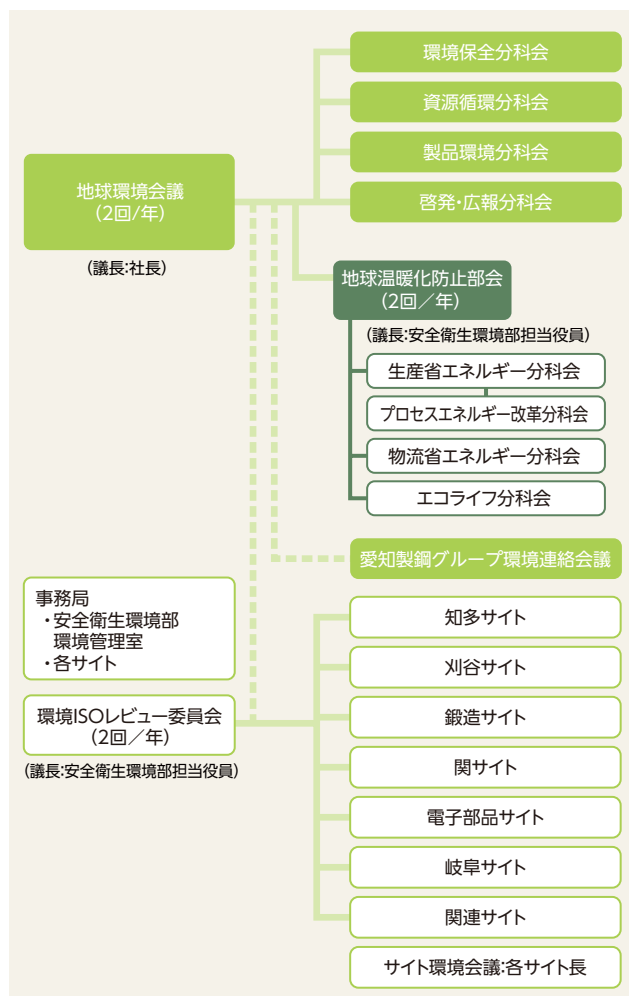
内部監査結果

指摘区分	年度	2011	2012	2013	2014	2015
重大な不適合(件)		0	0	0	0	0
軽微な不適合(件/部署)		0.47	0.38	0.28	0.17	0.26

外部監査結果

指摘区分	年度	2011	2012	2013	2014	2015
軽微な不適合(件)		1	1	0	1	2
改善の機会および必要によりその他の識別(件/部署)		23	32	24	17	51
		1.1	0.8	1.04	0.81	1.11

環境マネジメント推進組織 (2015年度)



環境ISOの取得状況

国内	愛知製鋼	1997年1月
	アイチセラテック	2003年3月
	愛鋼	2004年1月
	近江鋳業	2004年10月
	アイコーサービス	2005年1月
	アイチ物流	2005年3月
	アステックス	2007年5月
	アイチテクノメタルフカウミ	2010年12月
	海外	A F U
A I T		2006年11月
S A F C		2009年12月
A F I		2010年5月
A F C		2012年1月
AMC		取得検討中

環境保全コスト

(単位: 百万円)

分類	主な取り組み内容およびその効果	費用額
生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト (事業エリア内コスト)	集塵機電力・補修費用・排水処理費用 省エネルギーの為の投資・維持費用 産業廃棄物および事業系一般廃棄物の処理・リサイクルコスト	3,836
生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト (上・下流コスト)	簡易梱包化 (梱包資材低減・時間短縮)	0
管理活動における環境保全コスト (管理活動コスト)	社員への環境教育の為のコスト ISO 認証取得・運用費用 環境対策組織の person 費および諸費用	335
研究開発活動における環境保全コスト (研究開発コスト)	環境保全のための研究費用	1,320*
社会活動における環境保全コスト (社会活動コスト)	社内緑化作業、産業道路清掃作業	19
環境負荷低減に直接的に要したコスト	公害汚染賦課量負荷金	40
		合計 5,550

*昨年度からの増加理由: 2015年度より、研究開発費の該当費目を見直したため。

2015年環境取り組みプラン

当社は、2011年度から2015年度までの環境取り組みの実行計画である「2015年環境取り組みプラン」を2011年3月に策定し、モノづくりを通じて「社会・地球の持続可能な発展への貢献」を基本理念に推進することといたしました。この実現に向け、「環境マネジメント」を全ての環境活動のベースと捉え、社会貢献など継続的な取り組みを包括し、さらに連結子会

社までのグローバルな視点を組み込んでマネジメント強化をしていきます。

具体的な実施項目として「環境負荷低減」「低炭素社会推進」「資源循環向上」を3本柱として生産・技術開発・社会との連携・物流という切り口から活動を展開していきます。

【2015年環境取り組みプラン】実績と評価

テーマ	取組項目	目標	主な取り組み内容	実績	評価	
3本柱	環境負荷低減 製品	①ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	・グリーン調達提案の促進と採用 VA展（15/10）における取組み強化	・CO ₂ 低減、3Rを重点実施 ・提案6.9件/月	△※1	
		②環境負荷物質低減に向けた技術開発	・技術部門環境関連中計テーマの推進	・テーマ進捗フォロー （1テーマ完了、2テーマ計画通り進捗）	○	
		③製品別環境負荷の管理充実	・LCA項目の把握とデータ収集	・鉄鋼の循環型LCA手法の国際標準化へ参画	○	
		④お客さまがCO ₂ 排出量低減となるエコ製品開発	・エコ製品関連中計テーマの推進	・テーマ進捗フォロー	○	
	低炭素社会推進	⑤生産活動における省エネ活動の徹底	2013年～社内目標に基づく	・省エネ改善テーマの積上げと実施 ・エネルギー多消費部門の改善推進		△※2
		⑥物流活動における輸送効率の追求	輸送量当たり排出量 2006年比8%削減	・動線短縮の実施 ・逆流解消、二重デポ解消 ・物流一元化		○
資源循環向上	⑦生産における副産物の低減と更なる資源の有効利用	2013年～スラグフッ素規制対応埋立ゼロ ・社内目標（直接・間接埋立）に基づく	・スラグフッ素規制対応埋立ゼロ化継続 ・難選別煉瓦処理委託開始 ・廃酸汚泥委託先新規開拓		△※3	
	⑧資源循環型企業に資する事業推進	-	・トヨタGr発生金属くずの有効利用			
環境マネジメント 社会貢献	⑨異常・苦情ゼロ活動推進 ・異常・苦情ゼロ	異常・苦情 0件/年	・環境法規制値の80%以下管理の徹底 ・未然防止活動（GK強化）の推進	・環境ヒヤリの運用継続	○	
	⑩連結環境マネジメントの強化	-	・研鑽会による現地現物確認 ・安環部長による国内子会社環境監査	・国内関連会社との相互研鑽会継続実施 ・環境監査継続実施	○	
	⑪グローバルなCO ₂ マネジメントの推進	-	・全系列子会社エネルギー使用量報告ルール化	・海外拠点事務所含め対応、運用継続	○	
	⑫生物多様性への取組み	-	・NPO主催森林保全活動、東海市森づくり事業への参画 ・「カブトムシのすむ森づくり」推進	・森林保全活動参加（6月・8月） ・「カブトムシのすむ森づくり」イベント（10月）	○	
	⑬環境教育活動の充実と推進	-	・階層別教育充実 ・環境ニュース等による環境意識向上	・階層別教育継続および内部監査員増強 ・環境講演会開催（6月）	○	
	⑭環境情報の積極的な開示とコミュニケーション活動の充実	-	・メッセナゴヤ、産業まつり等での環境貢献PR ・愛知製鋼レポートのホームページWeb化 ・記者懇談会、本社地区懇談会、刈谷地区懇談会実施	・「人とくるまのテクノロジー展」出展（5月） ・「メッセナゴヤ2015」出展（10月） ・愛知製鋼レポート発行（日本語:9月、英語:11月） ・記者懇談会（5回）・本社（12月）・刈谷（12月）	○	
⑮地域貢献活動の活性化	-	・拡大クリーンアイチデーの参加者拡大 ・社内報・ニュースアラカルト等での環境活動PR継続	・拡大クリーンアイチデー参加者810名 ・会社近隣清掃活動（4回） ・社内報・ニュースアラカルトでの環境情報発信	○		

※1 環境パフォーマンス向上を図る ※2 鉄鋼連盟低炭素社会実行計画に対応 ※3 廃棄物排出原単位低減を図る